

堺市泉北ニュータウン再生指針の改訂に関する懇話会委員への意見聴取

日 時：令和3年1月19日（火曜）午前10時30分から午前11時30分まで

場 所：近畿経済産業局 総務企画部 総務課長室

相手方：細川委員

対応者：堺市ニュータウン地域再生室：田辺主査、清瀬主査

- SENBOKU New Design（案）全体について
 - ・ 懇話会での議論も踏まえた内容となっており、よくまとまっている。
 - ・ 泉北スタイルもわかりやすく、第5章のイラストもよい。

- 今後の展開について
 - ・ 策定した SENBOKU New Design を土台に、もっと深く議論や意見交換を行い、新しい指針を深化させてほしい。エリア別や世代別での議論もおもしろいのではないか。「住民主体」という意識をもってもらうためにも、必要なことだと考えている。
 - ・ 10年後のイメージや泉北スタイルを、住民と共有する機会を作る必要がある。
 - ・ ウィズコロナは今後しばらく続くと思う。接触を避けるなどにより、人と人との分断が起こってしまう。そういう時代だからこそ、人と人との「絆」や「つながり」といったことが大切である。単位自治会の活動だけでなく、エリアや世代をこえて主体的に住民がつながる・つなげる場づくりなどをニュータウン地域再生室で実施してほしい。

- プロモーションについて
 - ・ これまでは、泉北スタイルについては、住民にあまり浸透していないと感じる。
 - ・ 住民に対し、うまく発信していけるとよいと思う。「広報さかい」は重要な広報ツールと思うが、SNSやインフルエンサーをうまく使って発信していくのがよいと思う。
 - ・ 泉北スタイルのプロモーション用キャラクター（バーチャル）があってもよいと思う。
 - ・ プロモーションに関しては、泉北ニュータウンのブランド力向上を意識することが重要。このため、例えば、住みたいまちランキングの上位をめざしていくことなども、誰もが分かり易い取組みと思う。

- その他
 - ・ 最近、近隣センターで実施していた「キッチンカー」の取組は、すごく賑やかでよかったので、近隣センター再生への施策に加えるとよいと思う。
 - ・ 例えば、キッチンカーについては、全体をまとめる「オーガナイザー」のような業者が、複数の「アグリゲーター」（キッチンカー運営する業者）と連携し、多くのエリアに展開できるようになれば、地域と企業の持続的共生（地域課題と収益性との両立）が可能となる。
 - ・ その際、行政はサポーターとなり、例えば、場所を貸す、ルールを整理するなどを行う。

堺市泉北ニュータウン再生指針の改訂に関する懇話会委員への意見聴取

日 時：令和3年1月21日（木曜）午後3時から午後4時45分まで

場 所：グランドオーク百寿

相手方：小林委員、甚田委員、山口委員

対応者：堺市ニュータウン地域再生室：田辺主査、高松主査

■小林委員

【全体について】

- ・ 住民向けに読みやすさなどの工夫が必要と感じる。また、行政だけでなく、民間事業者、NPO、住民自らが実行するといった視点をもっと書き込めるとよい。

【住まいについて】

- ・ 若年世代の転出抑制のため、社会人になってすぐの住宅割引や公的賃貸住宅への誘導、つなぎ止め方策があるとよい。地域に愛着はあるが、親元から独立したい層への住宅誘導の施策は必要と考える。

【働く場について】

- ・ 若年世代の誘引といった観点からも、働きながら子育てする、働きながら学ぶ環境整備が非常に大切と考える。
- ・ 障害を持つ人、妊婦や育児中の人など、誰もが働ける場、働きなおす・学びなおす（再チャレンジ）できる環境整備も大切。例えば、オークカフェで実施している、様々な講師による住民向けに講座の取組などがさらに進むとよいイメージ。

【子育てについて】

- ・ 子育て分野にも、働くことを前提とした記載が必要。働きながら安心して子育てできる環境整備といった考え方が入っていない。分野が重複しても構わないので、「2.働く場」「3.子育て・教育」など切り口から読めるイメージで整理するのが良いのではないか。
- ・ 子育て世代の転入、定住等を促進するために、住宅ストックなどを活用した取組が進むとよい。例えば、公的賃貸住宅において、若年世代に魅力ある住戸の供給を促進することや、家事サポート等働きながら子育てする生活支援機能の配置を促進するなどが考えられる。
- ・ 子どもたちの活躍の場が少なくなってきたと感じており、学校では限界があるため、地域で担っていくことも必要と感じている。

【都市経営について】

- ・ 防災機能として、食料の地域内自給率を向上させる民間の取組など、地域内循環や地域で完結する考え方も大切だと考える。

【健康長寿・スマートシティについて】

- ・ 高齢者だけでなく、若年世代の健康をしっかりと打ち出せると若年世代にも評価が上がる。
- ・ 先端医療や健康増進などの情報が住民に提供されること、障害があってもICTの活用により暮らしやすくなること、などを将来像に示すことも必要と感じる。

【10年後の泉北ニュータウン（イメージ）について】

- ・ 例えば、「ボランティアでベビーシッターしている人」と、「ベビーシッターに預けて起業して駅前に店舗を出す人」など、暮らす人同士の関係性が見えると面白いのではないか。

■ 甚田委員

【参考事例について】

- 京都のグッドネイチャーホテルの地産地消の取組が非常に参考になる。京都市内の中心部（河原町）にありながら、自然食が買えるスーパーを併設するなど地域住民向けのサービスを展開している。泉ヶ丘駅前に導入する機能の参考事例としてほしい。
- シェアリングエコノミー（地域内で物々をシェアできる仕組み）の観点も参考になるのではないか。
- 上勝町の WHY（リサイクルセンターとゲストハウスを併用した事例）があり、間伐材の活用といった取組が参考になるのではないか。

■ 山口委員

【健康長寿について】

- 障害者や若年認知症は誰にもなりうる話であり、その観点を踏まえ、心や体の健康や働ける環境といった取組につなげて欲しい。堺市や泉北ニュータウンが障害者や認知症にやさしいまちとして定着することに期待する。

SENBOKU New Design (案) 追記・修正案

P.36 分野2 働く場

3. 働きながら暮らし続ける環境の整備

取組方針：少子化・高齢化により、家族ケアとの両立あるいは、自らも家事サポートを受けながら働く人が増える。働く場と同時に、暮らしをサポートする事業を誘致・創出し、職住近接が実現する取組を後押しする。

取組事例：

- ・障害をもちながら働く人が利用しやすい飲食店・介護食デリなど
- ・家族ケアをしながら働く人が、相談できる飲食店
- ・清掃や洗濯などの家事の代行サービスや1時間単位でのレスパイトケア施設

4. 働き続けるための学び場の整備

取組方針：10年でビジネス環境は大きく変化していく。変化に対応するための学びの場をまちなかに創出することで、世代や国籍・生活環境によらず、学べる環境を整備する。

取組事例：

- ・リカレント教育のためのリモートスクール施設の整備
- ・障害に応じた様々な学び方の体験施設
- ・妊婦や育児中でも学び続けられる・学びなおせる中等教育施設

○家庭内負担が当たり前だった家事を、公共空間に持ち出すことで家庭負担を軽減
離乳食カフェ（大阪府・豊中市）

<https://nocc.news/family-cafe/nounou>

喫茶ランドリー

<https://kissalaundry.com/>

○異なる価値観を体験し、身近な社会課題に気づくことで、新しい市場やビジネスを創造
バリアフルレストラン

<https://dare-tomo.team/event/event20200213.php>

暗闇で食べるブラインドレストラン

<https://seikatsu.ca/%E6%9A%97%E9%97%87%E3%81%A7%E9%A3%9F%E3%81%B9%E3%82%8B%E3%83%96%E3%83%A9%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%83%89%E3%83%AC%E3%82%B9%E3%83%88%E3%83%A9%E3%83%B3/>

○「暮らし」のそばに学ぶ環境を持ち込むことで、これまで「学び」をあきらめて就労機会を失っていた層への学びの提供

妊婦でも通える学校

<https://www.asahi.com/articles/ASK8X6CYSK8XUUPI00B.html>

[生徒全員がママか妊婦 米国の公立高、3歳児連れ登校も：朝日新聞デジタル](http://www.asahi.com)

www.asahi.com

P. 38, 39 分野3 子育て・教育

10年後のビジョン

働きながら安心して子育てを楽しめる豊かさのあるまちをめざす。

豊かな自然環境が身近にあふれており、子どもたちは自然を感じながら、学校・家庭だけでなく地域の住民との交流を通じて、子ども自身もまちの一員として、社会参画している。

また、医療・福祉・教育など「暮らし」に直結する分野を学ぶ学生や専門家が、住民と交流し、ともに地域活動に参画するまちとなっている。

駅前に連なる公園では、子どもたちと大人が創造的に遊び、学びあう拠点があり、「学び」や「楽しみ」をシェアする拠点となっている。

1. 安心して子育てできる環境の整備

取組方針：子育て世代にとって魅力ある街として、転入・定住・Uターン・Iターンを促進するため、泉北ニュータウンの住宅ストックなどを活用した安心して子育てできる環境整備への取組を推進する。

取組例：

- ・子育て世代のニーズに沿った魅力的な住戸、公的賃貸住宅の供給を促進する。
- ・子どもが身近に感じ、子育てする大人の生活支援機能を生活圏内に配置する。
- ・公的賃貸住宅の空き住棟・住戸・集会所などをコンバージョン（用途転用）し、子育て世帯・若年世帯をはじめとする新規流入者が地域とつながる拠点を整備する。
- ・家事サポートや妊娠・育児・教育相談などの働きながら子育てするための生活支援機能および相談機能の充実を図る。
- ・働き方の多様化に合わせて、小規模短時間保育やショートステイ・休日保育などの充実を図る。

2. 個性をはぐくむ地域教育の充実

取組方針：家族構成・出身地・国籍・働き方・障がいの有無などの多様な個性を受け入れるまちのしくみを整え、次世代に地域内外で活躍する子どもたちを地域で応援する取組を推進する。

取組事例：

- ・家族や個々の発達の多様性を認め、すべての子どもの自尊感情を育成し、学びを継続するためのフリースクール・インターナショナルスクールなど教育の選択肢を増やす。
- ・地域のNPO法人や企業などによる、放課後や休日の子どもの居場所づくり（食事・遊び・生活学習）など異年齢交流を図る取組を促進する。
- ・身近な自然や公園の中で体を動かし、探求心・創造性・観察力をはぐくむ「遊び育児」および地域住民との交流を通じて多様な社会関係の中で社会性・自主性・課題解決力をはぐくむ「まちなか育児」を啓発し促進する。
- ・屋内外の劇場・ホール・ひろばなど（ビッグバン・梅文化会館・駅前ひろばなど）を活用し、子

どもたちが文化的な体験や発表を行える場を整備する。

3. 学生が集い、住民とともに活動する「キャンパスタウン」の実現

取組方針：

「暮らし」に直結し、豊かな人間性が必要とされる医療・教育・福祉系の大学が集まる立地を生かし、学生同士の交流や住民との交流を図ることで、新たな10年への課題解決を創出するまちをめざす。

取組事例：

- ・ 泉北ニュータウン内に医療・教育・福祉系の大学が立地する「キャンパスタウン」としてのイメージを発信する。
- ・ 大学生向けの魅力あふれる賃貸住宅の供給を促進する。
- ・ 公的賃貸住宅における学生入居者向け割引制度を導入する。
- ・ 駅前地域に学生を中心とした交流拠点を整備する。
- ・ 学生による住民対象講座の開催や住民や地域の子どもとともに学ぶ機会を創出する。

4. 自然豊かな環境で子育てを楽しむライフスタイルの定着

取組方針：

歩車分離された緑道や公園が整備されていることにより安全・安心に通学やあそびができる環境や農村地域などの身近にある自然豊かな環境で子育てを楽しむことができる環境が整った泉北ニュータウンならではのライフスタイルの実現を図る。

取組事例：

- ・ 公園でのアクティビティ、農業体験、里山体験など、泉北ニュータウン地域における身近な自然や土とのふれあいの機会を増やすような体験イベントの実施促進、体験施設の充実化を図る。
- ・ 公園などの公共空間を活用した子育て世代がつどい、つながることができる場（アウトドアリビング）を創出する。
- ・ ビッグバンと泉ヶ丘公園の一体的活用による子どもが一日中楽しめ、親も楽しく子育てができる拠点を整備する。
- ・ 障害や年齢によらず楽しめる、UD（ユニバーサルデザイン）を取り入れた公園・遊び場の創出

○生活空間の延長線にある家庭の相談窓口（妊娠から成人まで）

これまで家庭内や親子間で担われていた日常のちょっとした相談をできる町の窓口。

専門家である必要はなく、共感して一緒に考えることにフォーカス。

妊娠から就学まで担当の保健師が家族の健康を支援するネウボラ・フィンランド

<https://globe.asahi.com/article/12200351#:~:text=%E3%83%8D%E3%82%A6%E3%83%9C%E3%83%A9%E3%81%AF%E3%80%81%E3%83%95%E3%82%A3%E3%83%B3%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%89%E8%AA%9E%E3%81%A7,%E3%82%82%E3%81%AE%E3%82%82%E5%90%AB%E3%81%BE%E3%82%8C%E3%81%BE%E3%81%99%E3%80%82>

妊娠期からの子育て支援 ドゥーラ

<https://www.crn.or.jp/LIBRARY/EVENT/DOULA/kishi.html>

○戸建て住宅を、地域の人が誰でもよれる場所にリノベーション。子育て支援機能も加えることで、子どもたちの声が聞こえる憩いの場であり、子どもたちにとって多様な関係性をはぐくむ場所でもある。認定 NPO 法人びーのびーの

<http://www.bi-no.org/shinohara.html>

○宿泊出張や急な残業・遠方の親族や親元での家庭トラブルなど、子どもを同伴できない場合のサポートを担う。シングル家庭・自営業・遠隔介護など家庭内では担いきれない時の緊急措置としてよりよい環境を整える。空き家活用とのかけ算。

横浜市金沢区 住宅を改築して子育て相談・ショートステイ施設として活用

<http://www.yui-yui.net/archives/business/%E3%81%93%E3%81%A9%E3%82%82%E5%AE%B6%E5%BA%AD%E6%94%AF%E6%8F%B4%E3%82%BB%E3%83%B3%E3%82%BF%E3%83%BC%E3%81%95%E3%81%8F%E3%82%89%E3%81%AE%E6%9C%A8>

○親子や子どもが日常の食事を一緒につくり、食べる居場所。野菜を育てて食べることで食育に加えて農業体験・環境教育にもつながる。泉北の地域資源を楽しく継承でき、生活教育、遊びにもつながる。

北野こどもキッチン（神戸市）

<https://m.facebook.com/motomachikodomokitchen/>

○0歳～18歳が同じ場所をタイムシェアしながら緩やかにつながる異年齢交流。

妊娠期からの相談窓口を併設することで、子育て支援拠点としても活用ができる。

相談中、子どもが親から離れて遊ぶこともできる。

品川区児童センター（東京都・品川区）

<https://city-shinagawa-kodomomirai.tokyo/child/detail/945>

○自然の中で、体を使って自由に遊ぶ場所。設定された遊びでなく自由に遊ぶことで、自主性・創造力・探求心がはぐくまれる

しながわプレーパーク

<https://www.facebook.com/shinagawaplaypark/>

○職種や年齢、国籍などが異なる人々が入り交じる介護付きシェアハウス

フリースペースがあり、学校帰りの子どもの居場所にもなっている。多世代・異文化・異年齢交流が生まれ、それぞれの得意が、それぞれの困りごとを補う場所。

はっぴーのいえろっけん（神戸市）

<https://helpmanjapan.com/article/8161>

○「小さな世界都市-Local&Global City-」をめざす豊岡市では、子どもたちが“地域への愛着を育み、地域で世界と出会う”ための様々な取組を実践している。

地域でも、子どもたちが主体となって実施する活動があり、文化的な体験に触れる機会を多く設けている。

まちの音楽祭（兵庫県・豊岡市）

<https://tonderu-local.com/education/3395.html>

小中高生が企画する「夏祭り」（兵庫県 豊岡市）

<https://tonderu-local.com/life/18690.html>

○大学生が多世代の居場所を運営している。学生と子どもの交流・住民と学生の交流・異年齢交流などが自然と生まれる場所。

男山団地（京都府・八幡市）

地域コーディネーター

http://vidanchi.jp/kansai/life/otokoyama_yattemiyou01/

まちの公務員

http://www.pref.kyoto.jp/chiikiriyoku/koukyouin_yawata.html

だんだんテラス@男山団地

https://www.ur-net.go.jp/west/case/otokoyama_danchi/kandai/dandan/index.html

○車いす利用者も一緒に遊べるユニバーサルデザインの公園

LATCP プレイグラウンド（アメリカ・ニューヨーク）

https://www.minnanokoen.net/report_hint_kaigai19.html

・

・

P. 40

分野4 健康長寿

2. 健康で安心して暮らし続けられる住まいの確保・住み替えの推進

取組方針：住み慣れた地域で、いきいきと健康に住み続けることができるよう、住まいの確保や住み替え制度の構築を行う。

取組事例：

- ・親世帯と子世帯が同居または行き来できる距離で安心して暮らすことのできる近居を促進する。
- ・公的賃貸住宅の地域医療福祉拠点化（生活支援アドバイザーの配置、健康寿命サポート住宅の供給、移動販売による買い物支援など）を推進する。
- ・多世代交流型賃貸住宅や在宅介護用賃貸戸建て住宅など、ニュータウン内で住み替えできる戸建て賃貸住宅供給の促進

コミュニケーションときわ

<https://commune-tokiwa.jp/>

飲食店・SOHO、高齢者、子育て世帯・一人暮らしなど多様な世代が暮らせる 55 世帯賃貸住宅
各部屋は DIY 可能 中庭・屋上庭園・スタジオなどが住民でシェア利用できる。

ホシノタニ団地

<https://www.odakyu-fudosan.co.jp/sumai/mansion/hoshinotani/about.html>

貸農園・café ランドリー・ドッグラン・子育て支援施設など、各世代があつまる場を備える賃貸集合住宅

P. 42

分野5 緑空間

2. 「農」と「緑」のある暮らしの実現

取組方針：

農村地域に隣接した立地特性を生かし、泉北ニュータウン居住者が、農と緑のある暮らしを楽しむ（担い手農家含む。）ライフスタイルの実現を促進し、農の体験を通して地域愛をはぐくみ、地域固有の豊かさを感じられる環境を整備する。

取組事例：

- ・ 泉北レモンの植樹など、地域内で農を楽しむ地域の特色を生み出す取り組みを推奨する。
- ・ 農村地域における市民向け貸農園の充実を促進する。
- ・ 農家を育成する農業塾など、営農技術を高め、次世代の農業者を育成する取組を推奨する。
- ・ 周辺農地や緑空間を維持するため、緑地や河川の清掃活動やごみの分別など環境教育に重点を置き、農業従事者以外にも緑空間への関心を高める取組を推奨する。

2021年1月22日 甚田知世

【35 ページ(住まい)参考事例】

- ・ はっぴーの家ろっけん(兵庫県神戸市) <https://crasapo.net/column/happy-no-ie/>
多世代型介護付きシェアハウス

【38 ページ(子育て・教育)】

- ・ 「教育」は子どもだけに限らない視点が入ると良い
- ・ 学校の空き室に企業やNPO などに入ってもらい
→リアルな働くを身近に感じることができる、多世代の人との交流が叶う

【45 ページ(都市機能)参考事例】

- ・ GOOD NATURE HOTEL KYOTO(京都府京都市)<https://goodnaturehotel.jp/concept/>

【49 ページ(市民交流) or 51 ページ(共創)参考事例】

- ・ シティリペア(アメリカ/ポートランド) https://sotonoba.place/portland_cityrepair

【53 ページ(スマートシティ)】

- ・ シェアリングエコノミーのシステム構築
→カーシェアリングのように所有せずに共有すること
例えば、どこに返却しても良いタンブラーなど

【54 ページ(プロモーション)】

- ・ 課題 ・ 泉北ニュータウン外の人に～ → 泉北ニュータウン内外の人に～

【55 ページ(プロモーション)】

- ・ Kobe Mural Art Project(兵庫県神戸市)
マイクロツーリズムに関連して、観光名所的な写真が撮りたくなるアートスポット
まちの景観づくりをしていく

【58 ページ(都市経営)参考事例】

- ・ WHY ゼロ・ウェイストセンター(徳島県上勝町) <https://why-kamikatsu.jp/>
2003年に自治体として日本で初めての『ゼロ・ウェイスト (Zero=0、Waste=廃棄物) 宣言』
上勝町のごみをゼロにする＝ごみをどう処理するかではなく、ごみ自体を出さない社会を目指し、上勝町ではごみ収集を行わず、生ごみなどはコンポストを利用し、各家庭で堆肥化。瓶や缶などのさまざまな「資源」を住民各自が『ごみステーション』に持ち寄って 45 種類

以上に分別、

『ゼロ・ウェイスト宣言』から17年経過した現在、リサイクル率80%を超えています。
堺市と同じSDGs未来都市です！

【61 ページ～(10年後の泉北ニュータウンのイメージ)】

《駅前及び周辺エリア》

- ・ 週の半分は出社せず、駅前のリモートワークスペースで仕事をする。異業種の友人ができ、ランチは施設内にある地産地消のカフェで食べる。リフレッシュタイムには、広場で開催されているヨガに参加する。
- ・ 大阪市内に住む友人と共に週末農体験に通う。友人たちと一緒に宿泊施設に泊まり、次の日はマイクロツーリズムで泉北ツアー！シェアサイクルでアートスポットめぐりをして旅気分を楽しむ。
- ・ 車椅子を使用している友人と駅前で待ち合わせ。介助の必要がなく、横並びで会話しながら散歩。緑道でたまたま見つけた移動販売でテイクアウトし、公園で食べた。
- ・ 仕事帰りにスーパーで買い物。今日は容器を忘れてしまったけれど、シェアリングエコノミーの容器で、量り売りの食材を購入。また商品の表示には、商品が作られるまで使ったエネルギー量が掲示され、エネルギー消費という視点での消費を考えるようになった。
- ・ 休日には、複合型宿泊施設に行って、外国人との交流を楽しむ。子どもがいつの間にか外国語を習得し、様々な国の子ども達と友人に。意気投合し、その友人の家で子どもがホームステイすることになった。
- ・ 公園で毎年開催される音楽祭。今年は運営側に携わってみようと、仕事を活かしてボランティアに参加。自分の出したアイデアが通り、地元で選抜された学生たちがプロと同じステージに立てることに！
- ・ この地域でしか味わうことのできない飲食が立ち並ぶ駅前。語学留学できた外国人が母国の料理をふるまうお店もある。

《近隣センター》

- ・ コンビニの一角で、地域の野菜が購入できる。B品や消費しきれない食材は寄付され、隣にある地産地消カフェで地域食堂の食材として活用される。
- ・ 子ども達がおこづかいで買える駄菓子、唐揚げ、たこ焼きなどのお店があり、通っていたら親以外に気軽に話しかけられる大人がいる。

《団地エリア》

- ・ デザインはもちろん、断熱性に優れており、自然エネルギーを活用して住み心地がよい。団地内の空きスペースにあるコンポストで堆肥をつくり、すぐ隣にある畑に使う。エディブルガーデンで採取したハーブで、近隣の人たちとティータイムを楽しむ。

- ・ 商業 OK の団地がついに誕生！住んでいる部屋とは別に仕事部屋として借りて、リモートワークをしている。また、趣味だったパンづくりを副業としてスタートした。

《公共施設》

- ・ 文化会館では、2-3 ヶ月ごとに変わる展示会が開催。次の展示会候補が発表されていたので投票してきた。
- ・ 図書館では、比較的安価で借りられる小規模な部屋がたくさんあり、ミーティング、教室、動画配信などができる。

以上

堺市泉北ニュータウン再生指針の改訂に関する懇話会委員への意見聴取

日 時：令和3年1月22日（金曜）午前10時30分から午前11時15分まで

場 所：市役所高層館15階 会議室 オンラインミーティング

相手方：小池委員

対応者：堺市ニュータウン地域再生室：田辺主査、清瀬主査

- SENBOKU New Design（案）全体について
 - ・ 充実した内容で、読み応えもあり、これからの指針として活躍してくれそうに思う。

- I 章
 - ・ 後半は読んでいて楽しく感じたが、最初のイメージとしてのデザインや文章が硬い。
 - ・ 3ページの「策定の目的」の前に、分かりやすく全体のイメージを伝えるページが1枚あっても良いのではないか。（4ページ下部の図を大きくしたものから入る、V章から何かピックアップするなど）

- II 章 4「これまでの取組について」
 - ・ 様々な魅力的な取組が実施されているので、写真を大きく、充実させたほうが良い。
 - ・ これまでの取組をエリアごとに落とし込んだ地図や図があるとより分かりやすかったのではないか。（例：みんなの子育て広場の開設場所、コミュニティカフェの場所、ニコイチの平面図、指定容積率がどう変わったか、すえむら資料館の場所、フォレストガーデンの情報など）

- V 章
 - ・ 全体的に、「住民が住民にサービスする」ことが分かるようなイラストがあるとよい。

- ① 駅前
 - ・ 冒頭の文章3つ目：「楽しみながら交流できる」に加えて「楽しみながら交流・活動できる」としてはどうか。
 - ・ イラストについて、リモートワークスペース、大学生の活動など市民が自分で関わることが明確に表現されていて良い。
 - ・ 大学生、社会人だけでなく、シニア世代、子育て世代なども自分が関わることが表現できれば良いと思う。

- ② 近隣センター
 - ・ イラストについて、住民が自分で出来ることが伝わってくると良いと思う。（例えば、趣味の展示をする、ハンドメイド雑貨を販売するなど）

- ③ 戸建てエリア
 - ・ 冒頭の文章に、「空き家や空きスペースをリノベーションなどにより活用し、生活サ

ービス機能や働く場をつくりだす」というようなことが入れれば良いと思う。

- ・ イラストについて、「コワーキングスペース」「リノベーション」「戸建て貸し出し」の例示は良い。空き家のリノベーション、空き家を上手く活用したサードプレイスの図もあるとより良いのではないか。

④ 団地エリア

- ・ イラストについて、ファミリー層だけでなく単身者が住みやすい、DIY ができる、住宅以外の用途 (+アルファの用途) が生まれている、といったことも表現できれば良い。

⑤ 公共施設

- ・ イラストについて、全体的に寂しい印象である。小学校や公園の広場なども公共施設であり、小学校のコミュニティ拠点や多機能化、駅からは離れていても豊かな暮らしができるということが図で表現されると良いのではなか。
- ・ 須恵器のことやニュータウンの開発のことなど、歴史や文化も重要だと思うので、そのあたりも図に盛り込んではどうか。

● その他

- ・ 「住み開き」という言葉は、アサダワタル氏が提唱した言葉であり、コミュニティデザインの世界ではメジャーであるが、まだ、一般的ではないかもしれない。私たちは「暮らし開き」と言い換えることもある。
- ・ 一般的にファミリー層が住むことが前提とされている団地において、社会人の単身者などが団地に住むといったことが、泉北ニュータウンで先進的に始まっていると思う。駅から徒歩圏内の立地であれば、単身者にも十分需要があると思う。団地 = ファミリー層といったイメージを変えていくことも必要と感じている。

堺市泉北ニュータウン再生指針の改訂に関する懇話会委員への意見聴取

日 時：令和3年1月22日（木曜）午後3時から午後3時50分まで

場 所：市役所高層館15階 会議室 オンラインミーティング

相手方：所委員

対応者：堺市ニュータウン地域再生室：田辺主査、高松主査

【全体について】

- ・ 見やすいデザインで作られていて住民から興味をもってもらえる作りとなっているのはよい。取り上げるべき項目が多いので、焦点が少し見えにくいので、重要な部分がより伝わりやすく書き出せるとよいと感じた。

【V章について】

- ・ 将来像として、暮らす人の顔が見えることを期待していた。ハード的な部分ではなく、まちの姿として人の表現が重要と考える。
- ・ 行政の計画は、そこで暮らしている住民の計画なのに、住民を巻き込めていないことが多い。住民が自らのまちを自らで決めていける＝ガバナンスを効かせられる、ということが感じられる、住民が自分の事として捉えてもらえる示し方に期待していたところがあった。一方、結果として、お示しいただいた資料のような見せ方もあるとも思う。

【策定の考え方について】

- ・ 4ページの図のように、計画がどのように組み立てられて、作られたのかを示すことは重要。特に今回は、10年後の将来像をイメージして検討してきたことは大変良いこと。
- ・ とりまとめた案は、懇話会や住民アンケート調査など、策定のプロセスに住民を巻き込んで進めてきたと感じているので、4ページの図などに住民の視点や声を反映してきたことを表現していただきたい。

【分野9共創について】

- ・ 住民同士の出会い、つながり、まちづくりへの取り組み、まちへの反映など、現行の再生指針にあった「意見交換のできる場の設定」といった表現が、今回の計画から抜けてしまったように感じる。是非、新たな指針でも表現していただきたい。

【理念について】

- ・ 「かつてのベッドタウンから豊かに暮らせるまちへ」だと、「かつてのベッドタウン」は豊かでないと誤解を招く。今よりもさらに豊かになる意味で、「より豊かに暮らせるまち」といった表現にしてはどうか。

【計画の進め方について】

- ・ 71ページ、事業達成状況・住民協働状況をなぜ、どのように把握するのかの説明がない。KPIも、「39歳以下の人口割合」を選定した理由がない。丁寧な説明にしたほうが良い。
- ・ 住民の行動変化をみていくという手法は、他の計画でもあまりみたことがなく、チャレンジする価値がある。

堺市泉北ニュータウン再生指針の改訂に関する懇話会委員への意見聴取

日 時：令和3年1月22日（金曜）午後6時から午後7時15分まで

場 所：三原台地域会館

相手方：岸本委員

対応者：堺市ニュータウン地域再生室：田辺主査、清瀬主査

- SENBOKU New Design（案）全体について
 - ・ 全体的に表現が固いように思う。分かりにくい用語（ICTなど）も多く感じる。
 - ・ 分野ごとに10年後のビジョンが書かれており、これからの泉北ニュータウンのバイブルになるものと言える。次の時代の人々につなげていくものにしてほしい。
 - ・ 住民にしっかり共有し、みんなが賛同できるようなビジョンにしてほしい。
- IV章
 - ① 分野2 働く場
 - ・ 泉北の地元で働ける場所が増えると、昼間人口の増加が見込める。企業をどれだけ誘致できるか、だと思ふ。淡路島がよい例だと思ふ（パソナグループ/本社機能の移転）。
 - ・ 通勤時間を減らせると、余暇に充てる時間が増え、よいと思ふ。コロナ禍が落ち着いたとしても、継続できるような施策を望む。
 - ② 分野4 健康長寿
 - ・ 公園に設置する健康遊具について、公園ごとに特色のあるものを設置してほしい。
 - ③ 分野5 緑空間
 - ・ 大きな公園だけでなく、小さな公園でも、様々な取組を行ってほしい。
 - ・ 後継者が少ないなど、農地の問題も多い。地方のように農地付き一戸建ての売り出しなど、移住施策の一環も考えられないかと思ふ。
 - ・ 子どもが農業と触れ合うことができるための支援施策があるとよい。
 - ④ 分野6 都市機能
 - ・ 近隣センターについては、核店舗の撤退が非常に厳しい。発展は難しくとも、現状は維持してほしい。
 - ・ どの近隣センターも、医療関係の店舗は増えている。しかし、それだけでは、近隣センターの活性化は見込めない。様々な種類の店舗があることで賑う。各店舗の店主の意識を高める取組に期待している。
 - ・ 各校区、近隣センターが核になる必要がある。
 - ・ 三原台近隣センターは、公園が側にあり、近くの緑道は広い。環境はとてもよい。近畿大学医学部等の開設により、当近隣センターまで人の流れができることを期待している。
 - ・ 榑・美木多駅前について、榑文化会館の改築などもいずれ必要になると思ふ。南側のトナリエだけでなく、北側もロータリーの整備と合わせて、コンビニなどの商業施設の立地があれば良いと思ふ。
 - ・ 榑・美木多駅は区役所や警察などが立地しており、「官公庁」が揃う駅である。本来、

官公庁が揃う駅が中心・拠点となるべきでは、と思っている。

⑤ 分野1 1 プロモーション

- ・ 電鉄会社のイメージがまちの印象に影響を与えると思う。これからの泉北ニュータウンのイメージ戦略は非常に重要だと感じている。

- 6章 2「事業の検証・評価の指標設定について」
 - ・ KPIを39歳以下の人口割合に設定したのはなぜか？
 - ➔ 20～39歳以下の転出が多く、バランスの良い世代構成を実現するためにも、これらの転出を抑制する必要があるため。
 - ・ 近畿大学医学部等の開設に伴い、職員や学生用の寮ができたりすると、若年世代の転入も見込めるため、期待している。

堺市泉北ニュータウン再生指針の改訂に関する懇話会委員への意見聴取

日 時：令和3年1月26日（火曜）午後3時から午後4時15分まで

場 所：市役所高層館15階 会議室 オンラインミーティング

相手方：伊木委員

対応者：堺市ニュータウン地域再生室：田辺主査、清瀬主査

- SENBOKU New Design（案）全体について
 - ・ よくまとまっていて、わかりやすい。

- 計画の名称について
 - ・ 前指針を継承するということが、「New」という言葉からは伝わりにくいので、「Renovation Plan（リノベーションプラン）」のほうが体を表していると思った。
 - ・ 新しく作る、という点を強調したいのであれば、「New Design」でよいと思う。

- II章 「4. これまでの取組について」
 - ・ 前指針の総括として、何ができていて、何ができていないか、などの評価は記載しないのか？
 - ➔ 前指針では、実施事業の目標値などを設定していなかったので評価はできないと考えている。（堺市）
 - ・ 新たな息吹、とはどういったものか？
 - ➔ 10年前に指針を作ったことで、公的賃貸住宅のリノベーション、近畿大学医学部の移転などの取組のほか、プロモーションの実施など、泉北ニュータウンというまちに興味をもってもらい、自ら活動する住民や賛同する市民が増えたことが挙げられる。（堺市）
 - ・ 解決できなかった「高齢化」や「近隣センター」の問題を根本から改善するのは難しいと考えている。住民の活動など新しい芽があるということは素晴らしいこと。

- III章 「1. 理念」
 - ・ 「かつての」という表現を使うと、今はベッドタウンでないように見える。
 - ➔ 開発当初はベッドタウンの位置づけが強かったが、この10年の取組により、ベッドタウンだけではない取組も進みつつある。次の10年でさらに変化し、ベッドタウンからもう一步踏み出した感じを表現したいと考えている。（堺市）
 - ・ 「泉北ニュータウンの価値を高め～」は抽象的で大きなことを含む表現、「かつてのベッドタウン～」は具体的な少し小さい表現なので、順番は、抽象的から具体的に流れる表記のほうが自然に感じる。

- 3章 「2. 基本方針」
 - ・ 基本方針の主語が誰なのかわかりにくい。
 - ➔ 基本的には堺市であるが、基本方針3は堺市を含めた様々な主体。（堺市）

- ・ 基本方針3「思いを共有し」とあるが、こういった思いかわかりにくい。「目的を共有し」といった表現のほうがよいのではないか。
→ 方向性、考えていること、気持ちなどを共有するといったことを表現したいと考えているので、「思い」という表記にしている。(堺市)
- ・ 全体的にシビックプライドなどのカタカナ表記は、住民に伝わりにくいかもしれない。
- ・ P28 基本方針4に「都市ストックをはじめとする地域資源」とあるが、都市ストックとは何か？地域資源と同じことでは？表現を検討してほしい。

● IV章

① 分野1 住まい

- ・ 10年後のビジョンに「若年単身者向けの共同住宅ができ、学生や若者が暮らすまちになっている」とあるが、近畿大学医学部が開校したとしても学生数は700名程度であり、近畿大学東大阪キャンパス(学生数3万人程度)ほどのにぎわいは生まれな
ないと思うが。
→ 今まで、単身者や学生向けのマンションが少なかったため、若年世代の転出を食い止め、単身者や学生に泉北ニュータウン内で暮らしてもらうために、単身者向け共同住宅の供給に努めたいと考えている。(堺市)

② 分野2 働く場

- ・ 泉北ニュータウン内で完結する「職住一体・近接型ライフスタイル」の考えはよい。
- ・ リモートワークも「職住一体・近接型ライフスタイル」のひとつだと思うが、新型コロナウイルス感染拡大を受け、泉北ニュータウンでもリモートワークが推進しているが、本文からあまりそれを感じることができないので、表現を工夫したほうが良い。

③ 分野3 子育て・教育

- ・ 子育て世代や若年世代を引き付けるためのキーとなる大事な項目である。
- ・ 初等・中等教育に力を入れている、教育熱心といった感じが表現できるとよい。

④ 分野4 健康長寿

- ・ SENBOKU New Designは若年世代を誘引することに注力した計画であると思うが、高齢者が健康でないと、その地域は続かない。サステイナブルなまちになるためには、高齢者の健康長寿が非常に大切である。
- ・ 取組方針2について、バリアフリーやユニバーサルデザインは住まいや施設面だけの概念でなく、泉北ニュータウンの都市構造にも適用すべき概念であり、もっと広い範囲を視野に入れてほしい。

⑤ 分野6 都市機能

- ・ 取組方針2と3は、近隣センターと住宅地内の店舗という視点の違いで記載していると思うが、違いがわかりにくい。近隣センターがうまく機能していないのに、住宅地内の店舗が成り立つのか、疑問である。

⑥ 分野 8 市民交流

- ・ 「新しい息吹」の一つだと思う。住民参加してもらうために必要な分野。
- ・ 取組方針 4 について、もう少し内容を濃くできるとよい。

⑦ 分野 9 共創

- ・ 共創という言葉がわかりにくい。説明が必要だと思う。

⑧ 分野 10 スマートシティ

- ・ ワクワクするような、期待できる取組例があるとよい。
- ・ 高齢者が簡単に使える交通手段が広まっているようなイメージがあるとよい。

⑨ 分野 11 プロモーション

- ・ プロモーションという言葉は、一般的に使われているものか、気になる。カタカナ語は用語解説などで説明するほうが良い。

● VI章 2 「事業の検証・評価の指標設定について」

- ・ KPI について、達成は非常に難しいと思うが、よい指標である。39 歳以下を設定したことに賛同する。
- ・ 「住宅」「仕事」「教育」に力を入れないと、若年世代は誘引できないと思う。
- ・ KPI の達成に向けた参考指標も、よい指標である。

堺市泉北ニュータウン再生指針の改訂に関する懇話会委員への意見聴取

日 時：令和3年1月27日（水曜）午後4時から午後6時まで

場 所：大阪府立大学 C20 棟会議室

相手方：増田座長

対応者：堺市ニュータウン地域再生室：矢田室次長、田辺主査、清瀬主査、高松主査

※各委員から出された意見を報告後、増田座長の意見を聴取した。

● Ⅲ章 「1. 理念」

- ・ 「より豊かに」という言葉は、「今までが豊かではなかった」という話ではなく、これまでベッドタウンという画一的な「住」という機能に特化していたことが、「多様性」「多機能性」を付加、生み出していくことに変わることを指すものであり、そのことが伝わる書き方が必要である。そうすることで、「より豊かな」「本来の真のまち」といった意味がわかる。ベッドタウンという「画一型からの脱却」ということがわかるような説明を書き加える必要である。

● Ⅲ章 「2. 基本方針」

- ・ 基本方針1について、「多様な」という言葉は、世代だけでなく、「住み、働き、暮らす」にもかかっていると考えるべき。住み方など全てに多様性があるということ。そのあたりが読み取れるとよい。

● Ⅳ章 「1. 分野別の取組方針について」

① 分野3 教育・子育て

- ・ スマートシティの観点から、ICT を活用した教育をモデル的に実施といったことが書けるとよい。
- ・ 様々な環境のもと生活している人々が安心して子育てができるようなニュータウン、社会にうまく適応できなくなり、学校に行くことができなくなってしまった子どもたちのための居場所があるニュータウン、そういった社会教育的な視点での記載があるとよい。
- ・ 箕面市の「彩都」では、小中一貫校を売りにして人気を集めている。高度な学習ができるといったことも記載できればよい。
- ・ 未利用な公共施設の活用といった視点も記載できればよいのではないか。

② 分野6 都市機能

- ・ 泉ヶ丘、柵・美木多、光明池の3駅を横並びで記載するのは難しいと感じている。それぞれの駅前地域には違いがあり、違いを認め合い、違うからこそ共生し、よいものができる。機能が同じだと、競合してしまう。
- ・ 実態として、泉ヶ丘駅前には近畿大学医学部等が開設されるという千載一遇のチャンスが到来しており、この機会をうまく活かしていく必要がある。特に泉ヶ丘駅前には、泉北ニュータウンの顔であり、「再生のトリガー」になるまちである。都市の成長には都市性や文化性などの刺激が必要であり、若者に刺激を与えられなければならない。泉ヶ丘駅前を若者にとって魅力的なまちにしていく、といったくらいの気持ちで進めないと勿体ない。

- ・ 榑・美木多駅には区役所などの官公庁が集約されることで、行政機能が向上している。光明池駅には大阪母子医療センターがあるため、連携して福祉エリアなどにするといったことも考えられる。
- ・ 行政としては、さまざまな意見や要望がある中で、思い切った「選択と集中」は難しいと思うが、上手に「選択と集中」を説明して、平等論的な発想からは脱却しないとイケない。
- ・ また、住民が「選択」できることが大事であり、選択できる環境を整えれば、同じもの・同じ機能を3駅に配置する必要はない。

③ 分野9 共創

- ・ 取組方針1について、「主要な団体との共創」ではなく、「ステークホルダーとの共創」や「プラットフォーム型の共創」がよい。事業者、事業者、行政だけが参画しているプラットフォームではなく、エリアのプレイヤーや住民なども参画しているものでないといけぬ。
- ・ 関係者が一堂に会して、話し合いができる「プラットフォーム型」や「パートナーシップ型」で進めることの大切さを書けるとよい。

④ その他

- ・ 各取組方針に記載されている「参考となる先進事例」について、他市の事例でなく、これまでの泉北ニュータウンでも、先進的、先導的な取組を行っているのだから、泉北ニュータウンでの取組も記載すべき。住民への分かりやすさは、自分の身近な話題・コンテンツが含まれているかどうかなので、泉北ニュータウンの取組が入ることで、住民も誇りに思えることにつながるのではないか。

● V章 「2. まちの姿と暮らす人の姿（イメージ）」

- ・ 全体的によくなっており、まさに「豊かさ」が感じられる。住民も楽しく読めるだろう。
 - ・ 吹き出し部分について、「学生」「元運転手」「大学生向け」など、人の属性を特定するような表現はないほうがよい。人物像は浮かばないような表現でも十分理解できる。
- 用語の解説
 - ・ 用語解説について、望ましいのは単語と同じページの下部に横線を引いて、その下に解説を記載するのが一番よい。後ろにまとめるのであれば、解説している用語に、本文中でアスタリスク(*)などを付けるなどの工夫があれば、より親切である。
 - 今後の懇話会の進め方について
 - ・ 今回は、緊急事態宣言の発出を受け、個別での委員への意見聴取であったが、会議を開くことで他の委員の意見を聞き、考え方が広がることが期待できる。パブリックコメント後、最終のとりまとめの前には一度懇話会を開催し（オンライン会議含む）、各委員同士がお互いの意見を聞き合える場の設定が望ましい。